



新春を迎えて

(財)日本ソフトテニス連盟
会長 海部 俊樹



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

前期長期基本計画の5ヵ年(2002~2006)を振り返りますと、懸案事項であったルール改訂、時代の変化に率先して対応を図るためのホームページの充実や会員登録システム構築等のIT化、全日本選手権大会のNHK放送6年間継続による広報の向上、文部科学省のスポーツ振興基本計画に的確に対応した競技者育成プログラムの策定、実施、さらにはヨーロッパを含めた国際普及の推進、2004年には日本ソフトテニス連盟創立80周年記念式典も実施できました。

そして、会員全員のご理解とご協力をいただきこれらの事業を推進するために、平成17年度から小・中学生の会員登録を有料化して組織と財源の強化を図る等の取り組みを進め、多くは一定の進捗が図られ成果を上げられました。

前期計画の最終年度にあたる昨年の一番のニュースは、何といってもドーハで開催されたアジア競技大会での念願の男子団体金メダル獲得です。女子団体の銀メダルをはじめ全体で金2、銀3、銅3の計8個のメダル獲得はすばらしい成績で心から敬意を表します。

次は、18年度から本格実施した競技者育成プログラムで、Step-3、Step-4(ジュニアジャパンカップ)とも大変な事

業ですが、各支部と大勢の指導者の方々のご協力のおかげで無事実施できました。この経験を生かし、皆様のご意見をいただきながらより良いプログラムに改善してまいります。このジュニアの競技力向上に加えて、18年度から念願であった日本スポーツマスターズの参加も朗報です。

平成19年度から平成23年度を計画期間とする「ソフトテニス長期基本計画2007」では、長期基本計画において取り組むべき施策としてこれまでの基本計画を継続して「競技性の向上」、「競技力の向上」、「国際性の向上」、「大衆性の向上」、「広報力の向上」、「組織、財源の強化」の6つの分野の向上対策としての主要課題を位置づけることとし、特に重点施策である「競技力向上」と「国際性の向上」を図る上で、その起爆剤として「競技者育成プログラムの推進」と「オリンピック参加の実現性の検証」をリーディングプロジェクトとして継続的に取り組むこととしました。

新長期計画のスタートの年である本年は、全国展開の競技者育成プログラムと日本スポーツマスターズ、国際普及活動の充実、ソフトテニスの日や会員登録制度の定着、そして大会の見直しやゼッケンの活用等に積極的に取り組まなければなりません。

トップ層においては、マカオでの東アジア競技大会、ドーハでのアジア競技大会での好成績に続き、本年9月に韓国の安城市で開催される第13回世界選手権大会において、新長期基本計画のキャッチフレーズである「世界に翔け!日本で生まれたソフトテニス」のとおり、世界No.1の実力を發揮されることを期待します。

皆様のご支援をお願い申し上げ、新長期基本計画の課題を着実に推進することをお誓いして、新年のご挨拶とさせていただきます。

第15回 アジア競技大会



団体男子金メダル(優勝を飾る!)



女子惜しくも銀メダル!



女子ダブルス金・銀独占!

第15回 アジア競技大会DOHA2006・ソフトテニス競技

【男子団体】		【女子団体】		【ミックスダブルス】			
1st	JPN	1st	KOR	1st	KIM WE	JI EUN HYU HWAN	KOR-1 KOR-9
2nd	TPE	2nd	JPN	2nd	KIM YOU	KYUNG RYUN YOUNG DONG	KOR-2 KOR-6
3rd	KOR	3rd	TPE	3rd	GYOKUSEN HARUMI TAKAGAWA TSUNEKO	JPN-1 JPN-10	
4th	MGL	4th	CHN	4th	NAKAHORI SHIGEO UESHIMA AYUMI	JPN-8 JPN-5	
5th	PHL	5th	PHL	5th	CHOU LI	CHIU PING CHIA HUNG	TPE-2 TPE-6
6th	NEP	6th	MGL	6th	FANG YEH	YEN LING CHIA LIN	TPE-3 TPE-10
【男子シングルス】			【女子シングルス】				
1st	WANG	CHUN YEN	TPE-8	1st	CHIANG	WAN CHI	TPE-1
2nd	篠原	秀典	JPN-9	2nd	JIANG	TING	CHN-1
3rd	NAM	TEAK HO	KOR-10	3rd	辻	美和	JPN-3
4th	KIM	JAE BOK	KOR-7	4th	KIM	JI EUN	KOR-1
5th	LIN	SHUN WU	TPE-7	5th	玉泉	春美	JPN-1
6th	花田	直弥	JPN-6	6th	ZHAO	LEI	CHN-4
【男子ダブルス】			【女子ダブルス】				
1st	LI YANG	CHIA HUNG SHENG FA	TPE-6 TPE-9	1st	GYOKUSEN HARUMI UESHIMA AYUMI	JPN-1 JPN-5	
2nd	KIM YOU	JAE BOK YOUNG DONG	KOR-7 KOR-6	2nd	HAMANAKA HIROMI TSUJI MIWA	JPN-2 JPN-3	
3rd	NAKAHORI SHIGEO	TAKAGAWA TSUNEKO	JPN-8 JPN-10	3rd	KIM LEE	KYUNG RYUN KYUNG PYO	KOR-2 KOR-3
4th	HANADA NAOYA	KAWAMURA TATSURO	JPN-6 JPN-7	4th	KIM LEE	JI EUN BOK SOON	KOR-1 KOR-5
5th	XIONG ZHANG	JUN DAN	CHN-6 CHN-7	5th	JIANG SHI	TING YUE	CHN-1 CHN-2
6th	GANTULGA UCHIRSAIKHAN	ENKHTUVSHIN BAYASGALANT	MGL-7 MGL-10	6th	ZHANG ZHAO	YAN TINGTING	CHN-3 CHN-5

「史上最大の参加数 45カ国・地域 約12,000名」

「ソフトテニスは10カ国・地域」

TD・技術代表 星野 博

本大会の開催については、正式種目として決定後、2003年、広島・世界選手権大会にDAGOC(ドーハアジア競技大会組織委員会)並びにQTF(カタールテニス協会)から5名の関係者を招致し準備を開始した。カタールにはソフトテニス連盟が無く、QTAの役員が各部門を担当するため、ASTF(アジアソフトテニス連盟)並びにJSTA(日本ソフトテニス連盟)に協力要請があり、当時の西村信寛ASTF事務総長が対応。その後西村信寛事務総長・丹崎健一国際委員とカタール・ドーハを訪問し、DAGOC担当者との打ち合わせを行ない、実施種別・競技会場・テニカルハンドブックの作成等についてDAGOCとの交渉が開始された。

今回のアジア競技大会は、12月1日から15日までの15日間で、45の国・地域が参加し、実施された種目は、チェストライアスロンなどが加わり39種目で、424の競技数が行われ、過去最高となった。

人口80万人のカタールでの開催に選手・役員約12,000人の参加となった。

日本選手団は選手626名・コーチ・支援コーチを含むと905名となったが、新聞報道でもあったように、日本選手団だけで120ほどのベッドが不足、全参加数では約2000ベッドが不足する事態となり、船に宿泊する関係者が出ていた。

ソフトテニス競技は第11回北京大会で中国オリンピック委員会の絶大な援助があり、デモンストレーション競技として初めて実施され、第12回広島大会から正式種目として行われ、第13回バンコク大会、第14回釜山大会、そして第15回ドーハ大会と実施された。

ソフトテニス競技には、日本・大韓民国・中華台北・中国・モンゴル・フィリピン・ネパール・タジキスタン・カザフスタン・モルジブの10カ国・地域で、女子団体6・男子団体7・ミックス13・女子シングルス13・男子シングルス19・女子ダブルス11・男子ダブルス16であった。

アジア競技大会はOCA(アジアオリンピック評議会)の規定により個人エントリーは各2までの規定がある。

審判員としては、インド・マレーシア・インドネシアなどの協力が得られたが、アジアソフトテニス連盟からの参加要請に、各NOCの了解が得られず選手派遣ができなかったことは大変残念であった。



日本からは選手団のほかに多くの役員や大会スタッフが現地で活躍した

ソフトテニス長期基本計画2007(2007年度~2011年度)

趣旨

(財)日本ソフトテニス連盟では、昭和58年度(1983年度)以来、ソフトテニスの抱える現状や課題に対応するとともに、ソフトテニスのいっそうの普及振興を図るために、長期基本計画を策定し、その方針に従って総合的・計画的に取組みを進めてきた。

現行の長期基本計画は、平成18年度(2006年度)をもってその計画期間を終了するため、現計画の達成状況や課題等を踏まえ、平成19年度(2007年度)から平成23年度(2011年度)を計画期間とする「ソフトテニス長期基本計画2007」を策定するものである。

ソフトテニス長期基本計画2007の理念

今期長期基本計画の理念及び主要課題に掲げられたもののうち、多くは一定の進捗が計られ、成果を上げている。一方で、ソフトテニスに課せられた課題も少なくなく、特に「国際性」については、後に述べるとおり、次期長期基本計画で真剣に取り組まなければならない。

次期長期基本計画では、これまでの長期基本計画の集大成を目指し、新たなソフトテニスの歴史を刻むための礎となるものとして位置づけ、当連盟が能力を挙げて取り組むものとする。

そのため、長期基本計画において取り組むべき施策としてこれまでの基本計画を継続して「競技性の向上」、「競技力の向上」、「国際性の向上」、「大衆性の向上」、「広報力の向上」、「組織・財政の強化」の6つの分野の向上対策としての主要課題を位置づけることとする。

そして、特に重点施策である「競技力の向上」と「国際性の向上」を図る上で、その起爆剤として「競技者育成プログラムの推進」と「オリンピック参加の実現性の検証」をリーディングプロジェクトとして積極的に取り組むこととする。

① 競技性の向上 今期基本計画の主要課題であり、長年改訂の要望が多かった競技規則の見直しがなされ、審判規則と大会運営規則の3点セットでソフトテニスハンドブックにまとめた。また、生涯スポーツとしてのソフトテニスの長年の夢であった「日本スポーツマスターズ大会」の参加も実現したが、さらに魅力あるスポーツとするため競技レベルの向上や大会見直し、大会運営改善を図り、国内外の普及はもちろん、見る者をもひきつけ「楽しい・すばらしい競技」を目指す。

② 競技力の向上 一貫指導システムの構築を目指して、競技者育成プログラムを平成17年度(2005年度)に策定し、平成18年度(2006年度)から本格実施段階に入り、全国展開を図っている。次期長期基本計画で同プログラムの充実と定着化を図るとともに、長期展望を探る。

リーディングプロジェクト 「競技者育成プログラムの推進」

③ 國際性の向上 従来の長期基本方針において、ジュニアに夢を与え、ひいてはソフトテニスの発展の起爆剤とするために、オリンピックの正式種目に採用されるよう、75カ国への普及活動、世界5大陸からの世界大会参加の実現に向け、取組みを進めてきた。また、その取組みを支えるために、平成11年度(1999年度)から会員登録制度を実施している。ところが、国際普及は一進一退であり、オリンピック種目への採用は現時点では目処が立つ状況ではない。次期長期基本計画では、最終目標をオリンピック参加に置きつつ、その実現性等について、客観的に検証し、最終的な方向性を見出すことを目指す。

リーディングプロジェクト 「オリンピック参加の実現性の検証」

④ 大衆性の向上 今期長期基本計画では、ソフトテニスの日・ソフトテニスの歌を制定したほか、ホームページの充実による会員への情報発信などを通じ、ソフトテニスの魅力アップに努め、大衆性の向上に取り組んできた。大衆性の向上は、ソフトテニスの底辺や裾野を広げるとともに、今後の普及振興に関わる基本的な事柄であり、次期長期基本計画でも真剣に取り組んでいく。

⑤ 広報力の向上 ソフトテニス愛好家がトップレベルのプレーを堪能するためだけでなく、ソフトテニスに関わりのない人にもこの競技のすばらしさを知らせるため、テレビ放送は最大のアピールチャンスであり、6年間NHKテレビ放送が継続実施出来たことは大きな成果である。今後も競技性向上に結びつけるための戦略である広報力の向上を図るためNHKテレビ放送の継続はもちろん、積極的なマスコミ対応を含め新聞報道の充実やホームページの充実に取り組む。

⑥ 組織・財政の強化 組織・財政の強化を図るために平成11年度に制定した会員登録制度も定着し、さらに強固な組織・財政を目指して平成17年度から小・中学生の有料化に踏みきった。時代の変化に対応したIT化による実務の効率化や迅速化は一定の成果があげられた。次期長期基本計画のリーディングプロジェクトである「競技者育成プログラムの推進」と「オリンピックの参加実現性の検証」を始めとした主要課題を着実に実行するためには、莫大な費用と人材が必要になるため、財源対策としてのスポンサー獲得諸制度の整備と諸施策実施のための体制整備に取り組む。

ソフトテニス長期基本計画2007のキャッチフレーズ

以上の最重要事項を踏まえ、次期長期基本計画のキャッチフレーズを次のように定める。

『世界に翔け!日本で生まれたソフトテニス』

平成19年度事業計画

1. 会員登録制度の徹底を図る。
 - (1) 会員登録の促進
 - (2) 登録手続きの効率化
 - (3) 傷害補償制度の徹底
 - (4) 会員報の発行
 - (5) 登録状況の把握
2. 競技力向上に関し、次の事業を実施する。
 - (1) 競技者育成プログラムの推進
 - (2) ナショナルチームの強化合宿
 - (3) 全日本U-14,U-18,U-21の強化合宿
 - (4) 競技力向上のための海外遠征
 - (5) 強化スタッフの各種大会視察
 - (6) 競技力向上のための調査・研究
3. 指導者養成のために、次の事業を実施する。
 - (1) 全国小学生・中学生・高校生指導者の合同研修会
 - (2) 指導者養成事業の推進
 - (3) 指導者バンク(日本連盟)の推進
4. アンチ・ドーピングに関し、次の事業を行う。
 - (1) アンチ・ドーピングに関する啓発活動
 - (2) 国内大会におけるドーピング検査の実施
5. 地域グループ育成のため、次の事業を実施する。
 - (1) 地域クラブ・ジュニアクラブの育成
 - (2) 支部中学校大会への補助
 - (3) 支部レディース大会への補助
 - (4) ソフトテニスの日の実施
 - (5) 指導者バンク(地域)の推進
 - (6) 総合型地域スポーツクラブの研究
6. 国内競技会を大会実施要項に基づき、別表のとおり実施する。
 - (1) 平成19年度大会日程および会場
7. 大会見直しの検討と大会運営の改善
 - (1) 全日本選手権大会の見直し
 - (2) 全日本団体選手権大会の検討
 - (3) 主催大会開催地関係費の増額
 - (4) スコアボード・ゼッケンの検討
 - (5) 主催大会における大会運営マニュアルの作成と役割分担の明確化を図る。
 - (6) スポーツ活動を通して環境保全を図る。
8. 地域における競技会開催に、とのとおり補助を行う。
 - (1) 9地区選手権大会 9地区×200,000円を助成する。
 - (2) 地区高校選抜大会 9地区×100,000円を助成する。
 - (3) 10地区中学選手権大会 10地区×100,000円を助成する。
 - (4) 壮年東西対抗大会 200,000円を助成する。
 - (5) 超壮年東西対抗大会 200,000円を助成する。
 - (6) 全日本学生同好会大会 200,000円を助成する。
9. 公認審判員制度に関し、次の事業を実施する。
 - (1) マスター・レフエリーの認定(50歳以上)
 - (2) マスター・アンバイヤーの認定(50歳以上)
 - (3) 1級審判員の検定会・研修会の実施
 - (4) 1級審判員の認定(新規、更新)
 - (5) 2級審判員の認定(新規、更新、ジュニア審判からの移行)
 - (6) ジュニア審判員の認定
 - (7) 主要大会における派遣審判員制度の実施
 - (8) 審判技術向上のためのDVDを作成する。
 - (9) 審判員バンクの創設
10. 技術等級に関し、次の事業を実施する。
 - (1) 名誉指導員およびマスターの認定
 - (2) 技術等級の認定
11. 用具・施設の公認に関し、次の事業を行う。
 - (1) ラケットの証紙、ネットの証布の発行
 - (2) 新規公認・更新手続きの承認
12. 広報に関し、次の事業を行う。
 - (1) 新聞報道の充実
 - (2) 全日本選手権大会のNHKテレビ放送の継続
 - (3) 機関誌「ソフトテニス」の毎月発行
 - (4) ITシステムの構築とホームページの充実
 - (5) 大会記録集の発行
 - (6) ソフトテニスの歌の活用
 - (7) その他の広報活動
13. 各種表彰を次のとおり行う。
 - (1) 国内大会入賞者
 - (2) 支部功労者
- (3) 優良団体
- (4) 優秀監督
- (5) 優秀選手
- (6) 全日本ランキング
- (7) 国際大会入賞者
14. 国際競技大会の参加種目への招致活動及び大会運営について支援する。
 - (1) 第5回東アジア競技大会(香港)の参加種目への招致活動と香港でのソフトテニス活動を支援
 - (2) 第16回アジア競技大会(広州)の参加種目への招致活動を展開
15. 国際競技大会への代表選手団を、次のとおり派遣する。
 - (1) 第13回世界選手権大会(韓国・安城市)
 - (2) 第15回日・韓・中ジュニア交流競技会
 - (3) 第6回チャイニーズカップ国際大会
 - (4) 第3回ハンガリー国際大会
 - (5) 第4回中山杯国際大会
 - (6) 第2回フレンドシップジュニア国際大会(モンゴル)
16. 国際普及活動を推進する。
 - (1) 75カ国(地域)への普及を目標に活動を促進
 - (2) 普及対象国への指導、支援
 - (3) ジュニア、シニア等の交流促進
 - (4) 用具の提供、流通の促進
17. 国際指導体制を充実する。
 - (1) 指導員の確保、派遣制度等の充実
 - (2) 普及指導用諸教材の作成提供
18. 国際組織の活動を支援し、国際関連諸規定を整備する。
 - (1) ISTF
 - (2) ASTF
 - (3) その他のソフトテニス組織(地域、国)
 - (4) ドーピングコントロール規程の整備と国際審判制度を制定する。
 - (5) 各国の協力体制、財政基盤の確立、組織運営について検討する。
19. オリンピック参加に向けての環境づくりと参加実現性の検証を行う。
 - (1) 現状の調査、分析、対応策の検討
 - (2) 国際関係組織とのコミュニケーション促進
 - (3) 国際PR活動
 - (4) 諸総合大会への参加、諸団体への加盟など推進
20. 長期基本計画2007に基づく課題の検討と対策の推進を図る。

平成19年度 一般会計予算

(収入の部)	(支出の部)
	(単位:千円)
1. 分担金収入	284,840
(1) 支部分担金	7,500
(2) 会員登録料	246,000
(3) 雑持会費	31,340
2. 事業収入	171,868
(1) 大会参加料	23,068
(2) 出版物収入	20,200
(3) 用具検定費	29,000
(4) 公認審判収入	78,200
(5) 技術等級認定料	12,000
(6) 機関誌関係	9,400
3. 補助金収入	700
4. 協賛金寄付金収入	10,050
5. 基本財産運用収入	1,000
(1) 基本財産運用収入	1,000
6. 雑収入	5,720
(1) 預金利息	20
(2) 広告料	2,700
(3) その他収入	3,000
7. 繙入金収入	294
(1) 萩金会計	294
当 期 収 入 合 計	474,472
前 期 繙 越 収 支 差 額	35,000
收 入 合 計	509,472
1. 事業費	213,188
(1) 指導要領等作成費	1,000
(2) 審判検定会・研修会	1,700
(3) 地域グループ育成費	54,710
(4) 大会開催地関係費	47,216
(5) 地域大会補助費	4,300
(6) 大会役員関係費	4,000
(7) その他大会関係費	1,000
(8) 公認審判関係費	43,300
(9) 技術等級関係費	7,500
(10) 用具施設証作成費	1,300
(11) 広報活動費	37,262
(12) 表彰費	9,900
大会視察費	
医科学研究費	
競技者育成プログラム推進費	
国際関係費	
国際大会派遣費	
2. 管理費	90,150
(1) 人件費	39,700
(2) 会議費	12,300
(3) 一般管理費	30,300
(4) 運営費補助	7,850
3. 加盟費	930
(1) 加盟費	930
4. 繙入金支出	171,988
(1) 繙入金支出	171,988
5. 予備費	33,216
(1) 予備費	33,216
基本金支出	
基本金支出へ振替	
当 期 支 出 合 計	509,472
当 期 収 支 差 額	△35,000
次 期 繙 越 収 支 差 額	0

平成19年度 助成事業特別会計 収支予算

(収入の部)	(千円)	(支出の部)	(千円)
1.日本体育協会	6,511	1.競技力向上費	165,510
(1)国体役員旅費	940	(1)強化合宿	54,500
(2)公認コーチ養成講習会	2,664	1.ナショナルチーム強化合宿	27,000
(3)上級コーチ養成講習会	941	2.全日本アンダーアクション	27,500
(4)日本スポーツマスターーズ	1,966	(2)国際大会派遣費	12,800
2.日本オリンピック委員会	2,149	1.世界選手権大会派遣費	5,000
(1)選手強化	2,149	2.チャニースカップ	2,100
競技者育成プログラム		3.ハンガリー国際大会	2,000
3.スポーツ振興基金	2,700	4.その他国際大会	3,700
(1)国内大会開催	1,500	(3)競技者育成プログラム推進費	90,780
(2)ジュニア選手強化	1,200	1.支部推進費(Step1,2)	18,800
国際大会派遣		2.ブロック推進費(Step3)	49,500
4.くじ助成	1,350	3.ジュニアジャパンカップ(Step4)	19,480
(1)ドーピング検査	150	4.関係諸費用	3,000
競技者育成プログラム	1,200	(4)大会観察費	2,200
5.その他の助成	550	(5)医科学研究費	1,900
6.大会参加料	3,992	(6)トータルスポーツクリニック	1,550
(1)全日本選手権大会	2,000	(7)ドーピング関係費	1,780
(2)日本スポーツマスターーズ	1,512	2.指導者育成事業費	10,605
(3)ジュニアジャパンカップ	480	(1)公認コーチ養成講習会	4,964
機関誌関係		(2)上級コーチ養成講習会	1,241
購読料	(一般会計へ)	(3)指導者研修会	4,400
広告料		3.大会開催等関係費	8,754
7.雑収入	129	(1)国体役員派遣費	1,000
8.繰入金収入	167,488	(2)日本スポーツマスターーズ	3,804
1.一般会計	167,194	(3)全日本選手権大会	3,950
2.一般会計(免税募金)	294	機関誌関係費	(一般会計へ)
一般会計(国際積立)		当期支出手合計	184,869
当期収入合計	184,869	当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0	次期繰越収支差額	0
収入合計	184,869		

平成19年度 国際業特別会計 収支予算

(収入の部)	(千円)	(支出の部)	(千円)
1.協賛金収入	500	1.会議費	600
2.雑収入	1,000	2.視察費	600
繰入金収入		3.親善大会費	500
当期収入合計	501	4.普及指導費	15,000
前期繰越収支差額	59,006	5.普及指導教材費	5,000
収入合計	59,507	6.用具費	2,500
		7.大会振興補助費	1,500
		8.活動促進費	4,000
		9.国際大会派遣費	1,000
		(1)日韓中ジュニア交流競技会	500
		(2)その他国際大会	500
		10.雑支出	300
		当期支出合計	31,000
		当期収支差額	△30,499
		次期繰越収支差額	28,507

平成19年度 傷害補償制度特別会計 収支予算

(収入の部)	(千円)	(支出の部)	(千円)
科 目	当初予算額	科 目	当初予算額
雑 収 入	1	傷 害 術 構 金	2,500
繰 入 金 収 入	2,600	事 務 費	150
当 期 収 入 合 計	2,601	雑 支 出	0
前 期 繰 越 収 支 差 額	73	当 期 支 出 合 計	2,650
收 入 合 計	2,674	当 期 収 支 差 額	△49
		次 期 繰 越 収 支 差 額	24

平成19年度 大会日程並びに開催地一覧

	大 会 名	開 催 地	日 程	19年度
主催大会	世界大会日本代表予選会	宮城県・仙台市	5月 3日(祝) ~ 5日(祝)	
	全日本シングルス選手権大会	沖縄県・沖縄市	5月19日(土) ~ 20日(日)	新潟市
	全日本実業団選手権大会	大分県・大分市	7月27日(金) ~ 29日(日)	新潟市他
	全日本小学生選手権大会	群馬県・前橋市	8月 2日(木) ~ 5日(日)	九州
	全日本社会人選手権大会	岩手県・北上市他	9月 1日(土) ~ 2日(日)	近畿
	JOC杯・全日本ジュニア選手権大会	広島県・広島市	9月 8日(土) ~ 9日(日)	広島市
	全日本シニア選手権大会	滋賀県・彦根市他	10月12日(金) ~ 14日(日)	中・四国
	天皇賜杯・皇后賜杯・全日本選手権大会	静岡県・浜松市	10月19日(金) ~ 21日(日)	北海道・東北
	日本実業団リーグ	京都府・福知山市	11月 2日(金) ~ 4日(日)	福知山市
	全日本クラブ選手権大会	千葉県・白子町	11月 3日(土) ~ 4日(日)	白子町
	日本リーグ	広島県・広島市	11月15日(木) ~ 18日(日)	広島市
	全日本インドア選手権大会	大阪府・大阪市	20年 2月初旬(日)	大阪市
拠点事業	日本リーグ入替戦	愛知県・名古屋市	20年 2月16日(土) ~ 17日(日)	名古屋市
	ジュニアジャパンカップ「競技者育成プログラム(Step4)」	宮崎県・宮崎市	11月22日(木) ~ 25日(日)	宮崎市
	都道府県対抗全日本中学生大会	三重県・伊勢市	20年 3月26日(水) ~ 28日(金)	伊勢市
共催大会	全国小学生大会	千葉県・白子町	20年 3月29日(土) ~ 31日(月)	白子町
	ハイスクールジャパンカップ	北海道・札幌市	6月22日(金) ~ 24日(日)	札幌市
	西日本シニア選手権大会	大阪府・大阪市	6月30日(土) ~ 7月1日(日)	中・四国
	東日本選手権大会	富山県・高岡市他	7月14日(土) ~ 15日(日)	北海道・東北
	西日本選手権大会	京都府・福知山市	7月21日(土) ~ 22日(日)	中・四国
	全日本高校選手権大会	佐賀県・嬉野市	7月28日(土) ~ 8月4日(土)	埼玉県
	全日本学生選手権大会	長野県・松本市	8月 5日(日) ~ 11日(土)	三重県
	全日本レディース大会(個人戦)	石川県・金沢市他	7月31日(火) ~ 8月2日(木)	静岡県
	全国中学校大会	宮城県・仙台市	8月21日(火) ~ 23日(木)	高岡市
	全日本レディース決勝大会(団体戦)	千葉県・千葉市	8月22日(水) ~ 24日(金)	千葉市
	日本スポーツマスターーズ	滋賀県・長浜市	9月15日(土) ~ 17日(月)	高知県
	第62回 国民体育大会	秋田県・大館市	9月29日(土) ~ 10月3日(水)	大分市
国際	スポーツ・レクリエーション祭	青森県・青森市	9月22日(土) ~ 25日(火)	滋賀県
	全日本高校選抜大会	愛知県・名古屋市	20年 3月29日(土) ~ 30日(日)	名古屋市
国際	日・韓・中ジュニア交流競技大会	中国・桂林	8月23日(木) ~ 29日(火)	千葉県
	世界選手権大会	韓国・安城市		韓国
その他	ねんりんピック	茨城県・つくば市	11月11日(日) ~ 13日(火)	鹿児島県